

2024年度 第17回全日本ユース(U16)水球競技選手権大会【桃太郎カップ】【戦評】

会場：倉敷市屋内水泳センター 【2024/12/27】

男子決勝戦

神奈川選抜 7

0	—	1
4	—	1
2	—	1
1	—	2

5 大垣市水球

PSO

審判： 縄井 裕平

高橋 大

この試合のプレー集計

神奈川選抜	28	SH数	22	大垣市水球
	8	速攻数	6	
	18	ST・SB	12	
	8	SH・P誘発アシスト	3	
	55%	GK阻止率	53%	
9	EX反則数	3		

ST・SB：ボール奪取・SH阻止

【試合の流れ】

大会前から「2強」と予想された通りの決勝戦。ただ、両チームともにここまで来るにはかなりの接戦続きの展開であった。そうした試合も勝ち抜けるだけの「守備力」がこの両チームの特徴でもある。神奈川は、1対1の接近戦の強さとGK①中田の位置取りの良さが、対する大垣は中盤プレスDFとGK①高橋のシュートブロックが強み。ということは、ゲーム全体はややディフェンシブに進行することが予想され、「1点の重み」が勝負を左右しそうな展開が予想される。なお、大垣の中心選手が体調不良で欠場したのがどう影響するか。

1P

予想通り、お互いの守備が攻撃を上回る形で、なかなかチャンスをつかめない我慢の展開が続いた。神奈川側にはチャンスらしいものがなく、速攻もほとんど繰り出せず、大垣側の守備から攻撃に後れを取ってしまい退水を許す形が続いた。しかし、大垣側の退水攻撃が左サイドにやや偏る状況でシュートコースを神奈川GK①中田に読まれてしまっていて得点できない状況が続いた。そうした中、ピリオド終盤に大垣GK①高橋のシュートブロックから⑥臼井が神奈川DFの前に入る形でペナルティを誘発。そこを③川合が決めて大垣が先制し、このピリオドを終了(神奈川0-1大垣)。

2P

ピリオド序盤、大垣②仲川のシュートブロックから神奈川選手を退水させ、そのチャンスを③川合が決めて追加点をマーク。ここまではディフェンス力でやや勝る大垣ペース。しかし、神奈川もすかさず④武田が退水を誘発して、そこを③矢邊が決め、さらにGK①中田のセーブからエース⑩仁木がペナルティを誘発して連続得点。このあたりから流れは神奈川ペースに。大垣の攻撃が右サイドの左利き選手の欠場が影響してやや単調になってきたところを神奈川が突くという形で、その後も加点。神奈川4-2大垣で前半を折り返した。特にこのピリオド、神奈川の中学生選手④武田がゲームの流れをよく見てプレーし、チャンスを演出したのが功を奏した。このピリオド、神奈川のシュート数が11本(大垣は5本)と攻撃面で大垣を圧倒した。大垣側としては、神奈川の攻撃ミスを超えてのカウンター攻撃時に大垣GK①高橋のパス出しを神奈川GK①中田に読まれて奪われ、そこから神奈川の⑩仁木に決められた逆転の3点目(1:51)が非常に痛かった。

3P

試合の主導権を握った神奈川は無理な速攻を繰り出すこともなく、センター位置取りする⑧岡田を軸にじっくりと攻撃する形。それでも大垣側の攻撃では1対1での仕掛けから退水を誘発して懸命に攻めるがなかなかゴールを割れない。そんな退水攻撃ミスから神奈川がチャンスをつかみ、⑦三宮がペナルティを誘発して連続の5点目を奪った(神奈川5-2大垣)。その後、大垣はゴール前で③川合が退水を誘発して④大橋が決めて、神奈川の連続得点を阻止する3点目。しかし、ピリオド終了直前、攻め手が切れかかった神奈川だったが右サイドに位置していた⑩仁木が決めて再び3点差で第3ピリオド終了(神奈川6-3大垣)。

4P

後がなくなった大垣はプレスDFで必死に追撃態勢に出る。神奈川は攻撃よりもDF意識を高める展開で、大垣にゴール前までボールを運ばれない形に持ち込む。その結果、神奈川の攻撃テンポは上がらないため、このピリオドだけでオーバータイムが3回。大垣はそこをしっかりと突きたいところだが、神奈川の戻りも素早く、ゴール前まで攻撃できなかつたが、ピリオド中盤に左サイドから⑦加藤がループシュートを決めて神奈川6-4大垣(4:51)。さらにプレスDFからパスミスを引き出し、それを起点によりやくゴール前にまで攻め込んで⑥臼井がペナルティ誘発。そこを③川合が決めて、神奈川6-5大垣と1点差に迫った(3:45)。ただそこから息切れたようにシュートにまで持ち込まず。逆に大垣側のオーバータイムから神奈川②池田に10m位置からの6mSHを決められ(2:05)、試合終了。神奈川7-5大垣で、神奈川が第14回大会以来の3年ぶり3回目の優勝を果たした。大垣は昨年同様の準優勝で、初優勝は来年以降に持ち越された。